

「サポートV」お礼状

一般財団法人 あしなが育英会

近畿労働金庫の社会貢献預金「サポートV」の預金者の皆さまと、近畿労働金庫の役職員の皆さまには、東日本大震災遺児支援にご理解を賜りまして、心より御礼申し上げます。ご寄付は東日本大震災で親を亡くした遺児たちや保護者の方々への心のケア活動などの支援に使わせていただいております。



「真剣に作業中 @心のケアプログラム」

2018年度は、仙台、石巻、陸前高田の東北レインボーハウス3拠点で、様々な心のケアプログラムを112回開催し、子どもから大学生、社会人まで、延べで仙台316名、石巻354名、陸前高田169名の方々が参加しました。遺児たちはプログラムに参加していくなかで、絵を描いたり積み木を使ってイメージを形にしたり、ボール遊びや卓球をしてみんなで遊んだり、体を動かしたり大声を出したりして、言葉にできない悲しみや怒りを発散していきます。そして学校や家族のこと、心の奥にある亡くなった親や震災のことを誰かに少しずつ聞いてもらいながら、長い時間をかけて心の傷を自分の力で癒していきます。



「みんなで食事 @にじカフェ」

定期的なプログラムのほかに、子供たちのペースで新しいことにチャレンジできるレインボーハウスや自然の中での宿泊行事「つどい」、東北大学震災子ども支援室・S-チルからの学習支援「しゅくだい塾」、仕事や社会のことを学ぶ工場見学なども行っています。また保護者の方々がご自身の感情や子育てのことなどについて語り合う「おはなしの時間」、大学生・社会人となった遺児たちが、今の思い・これまでの体験・これからの悩みなどをシェアし相談できる交流の場「にじカフェ」も開催しています。

毎年必ず行なっている阪神淡路大震災遺児家庭との

「交流のつどい」では、阪神地域の遺児家庭が仙台レインボーハウスを昨年11月に訪問し、被災した者同士、お互いを思い合う中で自分自身の気持ちに丁寧に触れる時間を持ちました。阪神淡路大震災を機にできた神戸レインボーハウスでは、災害・病気・自死などの理由で遺児となった近隣の子供たちやそのご家族への心のケア活動を今もずっと続けています。未永く2つの地域の心のつながりを大事にしていきたいと考えております。



「参加者の皆さま @東北と神戸の交流のつどい」

東日本大震災から8年が経過し、震災当時小学4年生だった子どもたちも高校3年生になりました。子どもから大人に向かいつつあるなか、沸き起こる思いの複雑さや悲しみの深さは人それぞれです。今でも喪失感、無気力感などを心に抱えている遺児たちもたくさんいます。皆さまのご支援は、そんな遺児たちを温かく見守り、時には背中を押して下さっています。また、あしなが育英会のスタッフやボランティアにとっても大きな力になっています。これからも多くの遺児たちやご家族が精神的に安全な場所であるレインボーハウスにつどい、長期的な支援を継続して受けることができるよう、あしなが育英会は今後も遺児たちの心のケアと成長のために全力で取り組んで参ります。皆さまのお気持ちに感謝申し上げますとともに、引き続き温かいご理解とご支援をどうぞよろしくお願い致します。

以上